

研究会構想発表

藁谷研究会

総合政策学部 4年

s10536tt@sfc.keio.ac.jp

寺部妙香

1. 研究テーマ

留学経験者の「知」と「経験」の踏襲：ドイツ語圏への留学志望者を支援するためのサービス設計

2. 前学期からの流れ

前学期におこなったインタビュー調査から「留学の手引き」に記述されている「派遣学生が現地で経験したことや情報」が後続の学生にとって重要な役割を果たしていることが明らかとなった。この「知」と「経験」をその場限りの物で終わらせず、踏襲させて行く方法の考案を最終目標地点とする。

3. 研究手法

1. インタビュー調査

国際交流化（留学担当部）

独文学科准教授

他大学かつドイツ語学科で留学経験者

これから留学予定の学生（慶應）

2. 文献調査

異文化コミュニケーション論

コミュニティ論

ソーシャルメディア系統を中心に

3. 留学サイトの比較（大学別・学部別）

→例. 「語学」に注力している大学の場合

① 東京外国語大学：<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ea1/ger/>

② 上智大学：<http://dept.sophia.ac.jp/fs/german/overseas/about/>

③ 独協大学：<http://dokkyo-de.blogspot.jp/>

：語学を全面に出している大学の場合、留学に関する情報が多い傾向
（ブログ・進路・留学の種類など）

【仮説】

ドイツ語圏への留学者が多い大学（例：東京外国語大学 3年・4年次以降 年間 27名/60名）はWebサイト・ブログを用いた「知」の集積・踏襲化、また留学志望者の利用が他大学と比べて多く行われているのでは？

→各大学学生へのインタビュー調査を通じ、コンテンツ項目の設定→データベース化に取り組む予定。

参考文献

「コミュニケーションを学ぶ」 高田明典 ちくまプリマー新書

「変わりゆくコミュニケーション 薄れ行くコミュニティ」

第二章 「現代社会とマスコミ」 大野哲夫

第六章 「繋がり合える社会の構造と論理」 浅岡隆裕 ミネルヴァ書房

「ヨーロッパ人」 浅井泰範 みすず書房

「大国ドイツの進路」 五島昭 中央新書